

そよかぜ 10月 園便り

令和6年10月1日(火)

西東京市立そよかぜ保育園

9月の一週目にはプールを片づけたのですが、そこからの暑さがまた厳しく、水遊びがしばらく続きました。最近やっと風の涼しさを感じるようになり、季節が変わっていることを実感します。これから「くう・ねる・あそぶ」に磨きをかけて、心も身体もたくましく育つ「秋」にしていきたいと思います！

さて、保育園ではたくさん「秋」の歌をうたっていますが、昔から歌い継がれている「ちいさい秋みつけた」はご存知の方も多いのではないのでしょうか。

「ちいさい秋みつけた」

だれかさんが だれかさんが だれかさんがみつけた
ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋みつけた
目かくし鬼さん 手のなるほうへ すましたお耳にかすかにしみた
呼んでるくちぶえ モズのこえ
ちいさい秋 ちいさい秋 ちいさい秋みつけた

鬼ごっこで目隠しをした鬼に、周りの子どもたちが手を叩いて「こっちだよ」と知らせている情景が浮かびます。鬼は目が見えていないので、耳を澄ませて音に神経を集中させ、方向を定めていきます。そんな時、手の鳴る音だけでなくどこかで誰かが吹く口笛や、モズの鳴き声が聴こえてきて、そこに秋を感じたのでしょうか。

これは私(今宮)の解釈なので、聴く人によってまた違う世界観が広がっていくことと思います。私がこの歌詞で注目したのは「耳で感じる秋」を表現している所です。私たちは日頃「**五感**」を使って色々な物を感じ分け、判断したり選択したりしていますよね。

さて、皆さんはどんな時にどんなふうに「秋」を感じますか。

肌寒くなってきた(**触覚**)、葉の色が緑から赤や黄色に変わった(**視覚**)、散歩に行くと金木犀の良い香りがしてくる(**臭覚**)、新米に秋刀魚に栗に…美味しいものがたくさん食べられるようになった(**味覚**)などなど。もちろん、香り一つとっても人によって「秋」を感じる匂いは様々だと思います。またこれら全てが重なって「秋」を実感する方もいらっしゃるでしょう。

では、お話を戻して「耳で感じる秋」とは…と考えた時に、私は遠くで聴こえる「石焼き芋～」の声に“秋も深まってきたな”と感じます。これは肌寒くなった秋に石焼き芋を手にして「あっちっち」と言いながらもお芋を半分に割った時の黄金色、口にほおばった時の鼻に抜ける甘い香りとホクホクした食感が相まった美味しさ…何とも幸せなこれらの体験を味わっているからこそ感じられる、私にとっての「耳で感じる秋」となりました。

日々の取り組みの中で子どもたちにも様々な自然や文化を**五感**を通して感じてほしい、やがてそれが子どもたちの生活に彩を加え、豊かなものになっていくことを願っています。

▼ 年長 T シャツ染め

先日、年長クラスが運動会に向けて T シャツ染めを行いました。玉葱の皮のご協力ありがとうございました。昨年度と同じ“玉葱の皮染め”ですが、媒染方法を変えているので、色が全く異なりました。今年はミョウバンを使った媒染です。

昨年度



今年度



▼ 毎週金曜日更新 Blog について

毎週、“園行事”や“お散歩に行っている公園の紹介”などを Blog にて行っています。PC やタブレットでご覧の場合はカテゴリーが見やすくなっております。

<https://soyokaze-hoikuen.net/>



10月の行事

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
		年長四園交流	布団乾燥 年長 みどり交流			運動会
13	14	15	16	17	18	19
	スポーツの日	年長 四園交流			4 オクラス遠足	
20	21	22	23	24	25	26
秋分の日		2 オクラス遠足		誕生会 避難訓練 中学生職場体験	鯉祭り 2 オクラス遠足 中学生職場体験	
27	28	29	30	31		
		さんまパーティー	3 オクラス遠足			

彼岸花が咲いている 辺りの木々の色が変わりつつある。

猫が陽だまりで丸くなっている。秋の訪れを感じ、ホッとひと息。

感謝

20 数年余り前のたつの子保育園父母会活動を支えてくれた父たちとお会いしました。

アレルギーがあり、困っていた時に出合った時のこと。

本気で走った運動会の親子対抗リレー。お父さんの縄跳び、カッコ良かったね。

雨対策に追われ、ブルーシートで基地を守った3泊4日の清里キャンプ・・・

田おこし 畔付け・代掻き 田植え・稲刈り そして餅つき

思い出の数々が昨日の事の様に思い出されていった。

「楽しかったなー」「大変じゃなかったんだよねー」

「七福神巡りは 今も家族で行ってるよ。」

「田んぼはイノシシの被害が大きくて辞めたんだけど、他は今も続いていますよ」「すごいなー」

鯉掴み 鮭捌き 山登り 縄編み・・・当時の取り組みのほとんどが、今なおやり方も変わらず続いていることに驚かれています。

「子ども時代に経験させてくれたことは、生きる力の基本なんだねー。」

手足を使い、汗を流し、友達の姿に励まされ、自分と向き合った様々な機会。良い塩梅 好い加減 の頑張りや学び、それらが肌感覚でとらえられるようになっていく等など、「空気を読めるってことだし、この肌感覚が大事なんだよ」・・・我が子の成長振りを微笑ましく語ってくれました。

今だから言える父たちの言葉です。

変えない！ 変わらない！ 変えられない！！ 変えてはいけない！！

継続できている事 何気ないつみ重ねの重さを感じました。これらの大半は姉妹園にも伝承され 続いています。

卒園児たちは自分らしく生きています。活躍の場をしっかりと確保し、自分の道を歩んでいます。

良き伴侶と共に新しい人生を歩んでいる事。酒を酌み交わす楽しみを語る父。我が子自慢は花盛り。

「子育て」という大きなヤマを越えようとしている親父たちの安堵の姿がありました。

そして保育園が多くの人たちに支えられ、守られて「子育て」という大きな営みを進めて来られたんだと実感です。有難いことです。

一人では成し得ない。力を寄せ合い、程よく助け合い、語り合える仲間。子どもにも親にも必要不可欠な仲間が共にそれぞれの時を繋いで来られ、これからも続く事でしょう。

子どもを真中に集った父たち、20 数年を経ても強い絆で語り合えた素晴らしい時間でした。

幼児教育国際学会に出席された方々が、9月24日施設見学に来られました。子どもたちと一緒にリズム遊びに参加され、初めてとは思えない軽やかな動きに感動しましたが、日本の保育（私たちの保育）の細やかさに驚かれ、感動の声が寄せられました。

夕食歓迎会は法人調理スタッフが総力を挙げ、普段給食で提供している和食メニューでおもてなしをすることが出来ました。ご協力ありがとうございました。

職員のつぶやき

4月に入職し、2歳児クラスの担任になって半年がたちました。もう半年もたったのかと思うほどあっという間の毎日です。

子どものころから泥に触れることを避けてきた私ですが、毎日裸足で泥んこ遊びを楽しんでいます。子どもたちと一緒に過ごしていく中で、子どもが楽しむためには大人も全力で楽しく遊ぶことが大切だと感じました。

初めての経験の毎日ですが、子どもたちと同じ目線でたくさんのことを学び、一緒に成長していきたいと思います。

羽村しらうめ保育園 片野陽菜